

祝福、約束、約束、祝福

**幸せってなんだろう** 「幸せってなんだろう。友だちとあそぶこと。食べ物があること。みんながいること。話ができること。これはぜんぶ幸せ。」まず、共にいるということ、さらに、一緒に何かをするということは、人間なら誰もが望んでいることだ。ある有名な心理学の理論、「マズローの欲求5段階説」は1. 生理的欲求、2. 安全の欲求、3. 所属と愛の欲求、4. 承認の欲求、5. 自己実現の欲求ということだ。低階層の欲求が満たされると、より高次の欲求を欲するようになる。「人間の欲求は、低次の欲を満たさないと、高次の欲求を満たすことはできない」。時代の変化により、今の時代なら、所属と愛の欲求や承認の欲求は、みんなが求めたいものでしょう。

今日のテーマは、祝福、約束、約束、祝福だ。その中の祝福は、創造主、天地万物を治めている王の王、主の主からの祝福を示している。そういう祝福や幸せとは、どういうものでしょうか。ガラテヤ3:14節のアブラハムへの祝福、「それは、アブラハムへの祝福がキリスト・イエスによって異邦人に及び、私たちが信仰によって約束の御霊を受けるようになるためでした。」創世記の中で、神様がされた、アブラハムへの祝福の約束のことも思い出させられる。

創世記 12:2-3、アブラハムへの祝福には3つのことがふくまれ、それは「あなたを祝福し」、「あなたは祝福となり」、「あなたによって祝福される」、と神様はアブラハムに約束された。

ある人は、神様からの祝福は、その5段階のうち、欲求の所属や愛の欲求、つまり、他者と関わりたいということや、承認の欲求、つまり、他者から自分の価値を認められたいなどに関することだけなのではないか、他の生理的、あるいは安全の欲求とはあまり関係がないのではないかと考えているようだ。

**聖書の中の祝福に関する箇所をしてみる。**

**民数記 6:24-26**、主の祝福は単に私たちをまもったり、照らしたり、恵みを与えたりすることではなく、しっかりと私たちの方を向いている。こちらを向いてくださるということには、重視するとか、顧みるとか、関心を持つなどの意味も含まれている。私たちの状況を理解し、共感をもって私たちを支え、私たちが必要な平安を与えてくださる。神様は、私たちの安全の欲求や、所属と愛の欲求を満たされる。

**箴言 10:22**、「人を富ませるのは主の祝福。人の苦労は何も増し加えない。」ある翻訳は、「主の祝福は人を富ませる、主はこれになんの悲しみをも加えない。」悲しみをも加えないこと、いつも心配が要らないことは、どんな素晴らしい祝福になるでしょう。富ませるということは、心の豊かさであると言っている。「もちろんこの豊かさは経済的な意味での豊かさをそのまま意味している訳ではない。あなたの生き方が豊かになる。失望を希望に、苦しみや悲しみさえも益に変えてくださるイエス・キリストと共に生かされていく豊かさを生み出していく。」確かに、神様からの祝福は、限られたものではない。神様からの祝福は総合的な祝福だ。物事から、心の平安まで、あたえてくださる。ですから、ここで示している神様の祝福は、生活面のことも含まれている。神様は、私たちが成功することや、富むことをよろこびます。

**伝道者の書 5:19**、「実に神は、すべての人間に富と財を与えてこれを楽しむことを許し、各自が受ける分を受けて自分の労苦を喜ぶようにされた。これこそが神の賜物である。」

**詩篇 23:1~6**、ダビデは詩を通して、神様は私たちの肉体の必要も心の必要も満たされる方だと言っています。

聖書は、神様とわたしたちとの契約書だ。聖書のなかには、神様が与えられる、3千を超える約束が書いてある。すべての約束は、私たちに祝福を与えるためなのだ。

### 神様の約束は、変わらないものである。

神様の約束は変わらないだ。パウロがまず、人間の例で説明しましょうといった。人間の契約を見ると、もしいったん結ばれた契約を、無効にするとか、勝手に変えたりしたら、抗議されるのではないか。神様のアブラハムへの約束は、信仰によって義と認めるということだ。信仰によって義と認められるという約束はアブラハムだけへのものではない、すべての人間への約束だ。十字架を通して、この約束を確実に実現する。神様は約束し、アブラハムは信仰によってこたえた。私たちは？私たちは、神様と神様の約束を信じるか。神様は約束を守るお方だ。変わることはない。逆に、私たちも神様のみまえて、なにかを神様と約束していることがあるかもしれない。私たちは、ちゃんときちんと約束を守れるか。

### 律法と約束

パウロは律法と約束との繋がりを詳しく説明した。人間は律法から恵みの必要性を理解し始め、その恵みはどこからくるのかというと、約束から出たものだ、と繋がっていく。律法は、二つの役割を持っている。

- 1) パウロは人間は罪人であるということをはっきり言っている。そして律法は罪とはどういうものかということを示している。律法とは、違反を示すためにつけ加えられたものなのだ。
- 2) さらに、律法は人間が自分の罪を発見することができるように、つまり、自分は罪人であるという事実を知ることができるように、という役割を持っている。律法は、わたしたちみんなが罪の下に閉じ込められているということ、頭で理解することからはじまり、こころがそれを認め、完全に同意できるようにするための働きをする。

「律法は私たちに、すくい必要性を教え、そして、神の恵みである約束は私たちに救いをあたえ。」

### 聖書も聖霊も成長の導き手です。

神様は私たちに聖書をあたえてくださる。聖書の中に、戒めも約束もかいてある。律法は私たちがキリストに導く養育係となった。信仰が現れる前、私たちは律法の下で監視されていたが、救いの約束がきてから、監視もなくなった。けれども、私たちがキリストへと導く働きは聖書によって続けられている。聖書を読むと、すべきこと、してはいけないことが、きちんと教えられる。そして聖霊が、信仰を持っている私たちと共にいる。聖霊は私たちの心の中に宿っておられる。私たちに神様の御心を教えたり、神様に喜ばれる道に導いたりしてくださる。聖書によって、私たちは自分が神の子どもであることを知り、聖霊によって、私たちは自分が神の子どもであるというアイデンティティーの証明を確実に体験できる。聖書も聖霊も、私たちがキリストを着ている生活を送れるようになるための、大きな助けとなる。聖書は、古い人を脱ぎ捨てて、神にかたどり造られた新しい人を着ることを教える。実際にそれを体験させてくださるのは、聖霊の働きだ。

ハワード・テラー：『しかし、信仰を強められるためには、どうしたらよいのでしょうか。それは、信仰を求めて努力するのではなく、忠実なおかたに寄りかかることによるのです。』それを読んだ時、わたしにはすべてがわかりました。「たとい、わたしたちは不真実であっても、彼は常に真実である。」わたしは主を仰ぎ、「決してあなたを見捨てない」と言われる主を見たのです。わたしが見上げた時、ああ、どんなにうれしかったことでしょうか。「主のうちにいこおうとむだな努力をした。もう努力はすまい。主がともにいて下さると約束されたのではないか。決してわたしを見捨てず、見放すこともないと。確かに主は決して見放されません。」